

A COMMON BEAT

熱い気持ちが未来をつくる 感じるチカラが日本を育てる

コモンビート共育プログラム 2008 ミュージカル「ア コモン ビート」

第 10 期 東京公演募集要項

2008 年 11 月 練馬文化センター こぶしホール

100 日間で学べること、それはすべてあなた次第！



表現力 (発信・アウトプットの力)

ダンス・歌・芝居の練習を通じて、身体を使った表現方法を学びます。基礎体力もあがり、きれいな姿勢や発声も身につきます。しなやかな身のこなしは、社会の様々な場面で役に立つ「自己表現」につながります。

自分と向き合う力 (実践を積む・オンブットの力)

社会について、人類の歴史について考える時間を通して、作品のテーマである「異文化理解」を追究していきます。その過程で社会や歴史とのつながりをより強く感じられるようになり、想像力が豊かになります。

感受性 (受信・インプットの力)

100 日間の様々な場面で、自分の色々な姿に出会います。うまくいくこともあれば、うまくいかないこともあります。その全てを受け入れたときに、自分自身はもちろん、他者を受容できる心が育ちます。

仲間との絆 (相互理解力・コミュニケーション能力)

何かに向かって真剣に取り組むときは、仲間との間に遠慮なくぶつかり合う関係が必要です。泣いて笑って触れ合いながら、みんなで一つの目的を達成できたとき、その先の人生にもつながる強い絆が生まれます。

コモンビートのミュージカルは、ただのミュージカルではありません。

100 人の参加者が **100 日間**の練習を通して培った自分の情熱を公演で出し切ることで、

その「熱」が伝わったお客様の明日が力強くなったり、ワクワクするものになる、

「情熱の発信地」なのです。



ミュージカル「A COMMON BEAT」に描かれる「世界」は、様々な文化の特徴を持った 4 つの大陸で成り立っています。人々は互いに他の大陸の存在を知らず、独自の文化をそれぞれに楽しんでいました。ところがあるとき、自分たちとは違う文化を持つ人々がいることに気が付きます。驚き、戸惑い、好奇心、恐怖…平和な「世界」に大きな変化が訪れます。「違う」ということは、恐れるべきことなのか、それともその「違い」こそが美しさなのか。

このミュージカルの内容は、まさに 100 日間を過ごす私たちのストーリーにリンクしています。

年齢や職業などのバックグラウンドや価値観の異なる 100 人が、お互いの「違い」を認め、乗り越え、公演というひとつの目標に向かって進んでいきます。失敗しても幻滅しても、自分や仲間を何度も信じ直してチームワークで作品を作っていく。それが互いに学びあう「共育プログラム」そのものなのです。

NPO 法人コモンビートが目指すもの

現代は、便利なモノが増えていく一方で、何気ないコミュニケーションの場や、自分で実際見たり聞いたりさわったり五感を使う機会が減りつつあります。こうした環境では、お互いの違いを受け入れる、自分の可能性を信じるといった、生きるうえで大切な力を養うことは難しいでしょう。

だからこそ今、私たちは「感受性」を豊かにする教育が必要だと考えます。コミュニケーションを交わしながら、刺激あふれる体験を通じて、お互いに学んでいく。一方的に教えるのではなく、共に育むこのスタイルを私たちは「共育」と名付けています。これまで考えたこともないテーマでディスカッションをしたり、日常とは異なる環境に飛び込んだり、実際にプロジェクトを動かしたり。体験を伴った学びによって、感受性が磨かれていきます。

豊かな感受性を養う「共育」を提供し、社会のあらゆる場で活躍する人材を育てる。それが、NPO 法人コモンビートが目指すものです。



